9.11事件についてのDVD視聴後の態度の変化

『Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』の暴力の記憶とゲシュタルト転換への影響

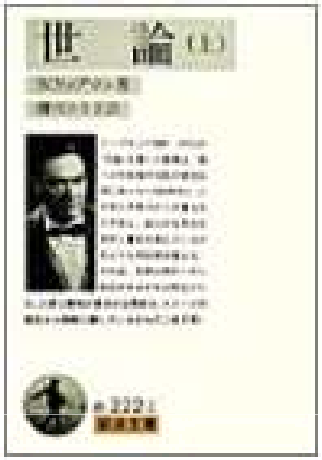
益崎　雄大(和光大学)
中川　拓(和光大学)

数理システム　学生研究奨励賞　提出論文

2010年11月8日

暴力の記憶について

- ９．１１事件は実際に起こった暴力の事件として捉える事ができる。
- 人々はその事件をどう記憶しているか？
- (1)記憶が正しいかどうか（どのように構成されているか）
- (2)暴力の記憶に対し、人々はどのような感情を抱いているか



人間の心理の
ゲシュタルト転換

- ある枠組み（メディアから与えられた偏見・態度など）が、何かの出来事によって、その全体像が全くの別物に変化することをゲシュタルトの転換という。
- 9.11事件をきっかけとして、世界の対立の枠組みを大きく変えた。

ゲシュタルトとは

人間の精神は部分や要素の集合ではなく、全体性や構造こそ重要視されるべきとした。この全体性を持ったまとまりのある構造をドイツ語でゲシュタルト(*Gestalt*：形態)と呼ぶ。（Wikipediaより）

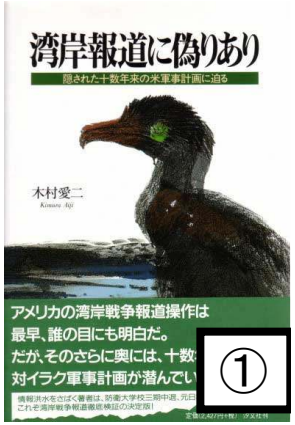
２１世紀に入り、やらせ・でっち上げで戦争の世論を操作・誘導した事件

（1）油にまみれた黒鳥事件

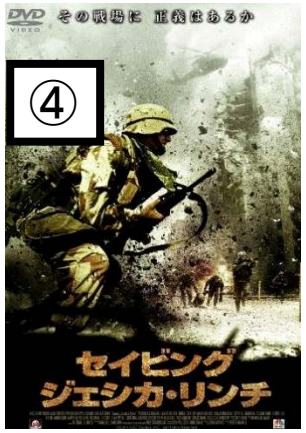
（2）虐待をみた少女ナイーラ、
　実は大使の娘だった事件

（3）イラクに対し、大量破壊兵器を理由に開戦したが、実は無かった事件　★映画「グリーンゾーン」

（4）女性兵士ジェシカ・勇敢に戦った事件



- このような情報操作あるいは事実に基づかないプロパガンダによって、暴力についての集合的な記憶を共同体が共有する。
- それが世論の基盤となって、イラク戦争とアフガニスタン戦争の遂行に協力推進するような世論を高めてきた。
- このことを考えると、マクロレベル（マスメディア）での騙されないためのメディア・リテラシー（池上，2008）の向上のための教育が課題となろう。



暴力の記憶とゲシュタルト転換の題材としての9.11事件

- 9.11事件(9.11テロ)によるWTC崩壊の様子は、マスメディアによって広く報道された。
- ブッシュ大統領の「テロとの戦い」政策は、米国国民の高い支持率を得たのち、アフガニスタン戦争とイラク戦争のきっかけとなった。
- しかし、戦争の発端として位置づけられている9.11事件の物的証拠は非公開であり、結果として米国軍需産業に莫大な利益をもたらしたこと、アルカイダがCIAに育てられた事実があるなど、いまだ未解明の部分も多い。
- こうしたなかで、米国政府による公式見解の矛盾点を指摘する、さまざまな諸説が生み出されている。その諸説の1つとして、米国政府の公式見解に対して「事件は米国政府が予め知っていた」あるいは「米国による自作自演である」などと主張する、いわゆる「米政府関与説」(陰謀説、謀略説; 以下 陰謀説)が唱えられている。
- この事件を題材として研究することは、暴力の記憶とゲシュタルト転換の研究としても興味深いテーマである。

目的

- ビデオ『 Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』を視聴することにより、9.11事件に対する記憶が変化するかどうかを調査することが本研究の目的である。

方法

- 被験者は大学生158人（男子93名、女性64名、未記入1名、平均年齢19.0歳）であり、有効回答者数は147人であった。有効回答率は93.0%である。
- 調査実施は2010年7月17日に大学の心理学概論の授業にておこなった。
- 被験者には実験の意図を示さずに、約90分のビデオ資料『Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』を見せた。質問紙は事前(見せる前)と事後(見せた後)があり、5つの共通の質問に加え、事前のみの質問が2つと事後のみの質問を8つ記入して意見を比較した。また、事後については、DVDの感想を記入してもらった。

質問紙（事前）の構成は、以下の通りである。

問1　あなたは、2001年に米国で起こった9.11事件についてご存じですか？

問2　この事件の犯人は誰だと思いますか？

問3　犯人の目的は何だと思いますか？

問4　9.11事件により崩壊したニューヨーク市の世界貿易センタービルの建物の数は何棟でしたか？

問5　世界貿易センタービルの建物は、何が原因で崩壊したのだと思いますか？

問6　この事件について、何か記憶していることはありますか？

問7　この事件について、連想されるキーワードを3つ以上お書きください。

質問紙（事後）の構成は、以下の通りである。

問1　あなたは、このDVDを以前に見たことがありますか？（どれか1つに〇）

問2　この事件の犯人は誰だと思いますか？

問3　犯人の目的は何だと思いますか？

問4　9.11事件により崩壊したニューヨーク市の世界貿易センタービルの建物の数は何棟でしたか？

問5　世界貿易センタービルの建物は、何が原因で崩壊したのだと思いますか？

問6　このDVDを見て一番印象に残ったシーンはどこですか？

問7　DVDの内容について、どのようなイメージを持ちましたか？

問8　このDVDを見て疑問に思ったことはありますか？

問9　このDVDに点数をつけるとしたら100点満点で何点ですか？またその理由をお書きください

問10　この事件について自分で調べてみたいと思いましたか？（どれか1つに〇）

問11　9.11事件を報道していたメディアに対して何か思うことはありますか？

問12　この事件について、連想されるキーワードを3つ以上お書きください。

問13　このDVDについての感想をお書きください。

結果①　3群による犯人についての意見の変化

- Table.1は視聴前と視聴後の問2(犯人)の質問の答えを米政府見解説(政府説)、中間説、米政府関与説(関与説)の3群に分けて比較を行ったものである。
- 事前に政府見解側だった84名中33名(39.2%)が、視聴後は米政府関与説(陰謀説)に意見を変え、意見を変えなかったのは22名(26.1%)だった。
- 符号検定を行ったところ、負の差2名、正の差83名、同順位62名で、$z = -8.677$, $p < .001$となり、帰無仮説は棄却された。また、このz値は非常に高い値であった。(Table.1)

	事後	米政府見解説	中間説	米政府関与説	合計
事前	米政府見解説	22	29	33	84
	中間説	2	30	21	53
	米政府関与説	0	0	10	10
合計		24	59	64	147

Table.1　犯人についての米政府寄り意見と米政府関与説寄り意見の変化

結果②　犯人に対する単語数の変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
ウサマ・ビン・ラディン	37	15	-22	52
分かる＋ない	17	31	14	48
アメリカ	8	27	19	35
テロリスト	24	8	-16	32
アメリカ政府	1	23	22	24
アルカイダ	18	5	-13	23
ジョージ・ブッシュ	6	9	3	15
サダム・フセイン	4	1	-3	5

Table.2,　犯人は誰か？という問いに対する被験者の単語数の変化

Table.2は視聴前と視聴後の問2の答えに単語頻度解析をかけたものである。

視聴後(事後)ではビン・ラディン、フセイン等の政府説やアルカイダに関連した単語数が減少する一方で、

アメリカ、ブッシュといった関与説に関連した単語が増えていることがわかる。

また、分かる+ない(分からない)という中間にあたる単語も増えていることがわかった。(Table.2，Fig. 1)

※青枠が視聴後に減少した単語、

赤枠が増加した単語

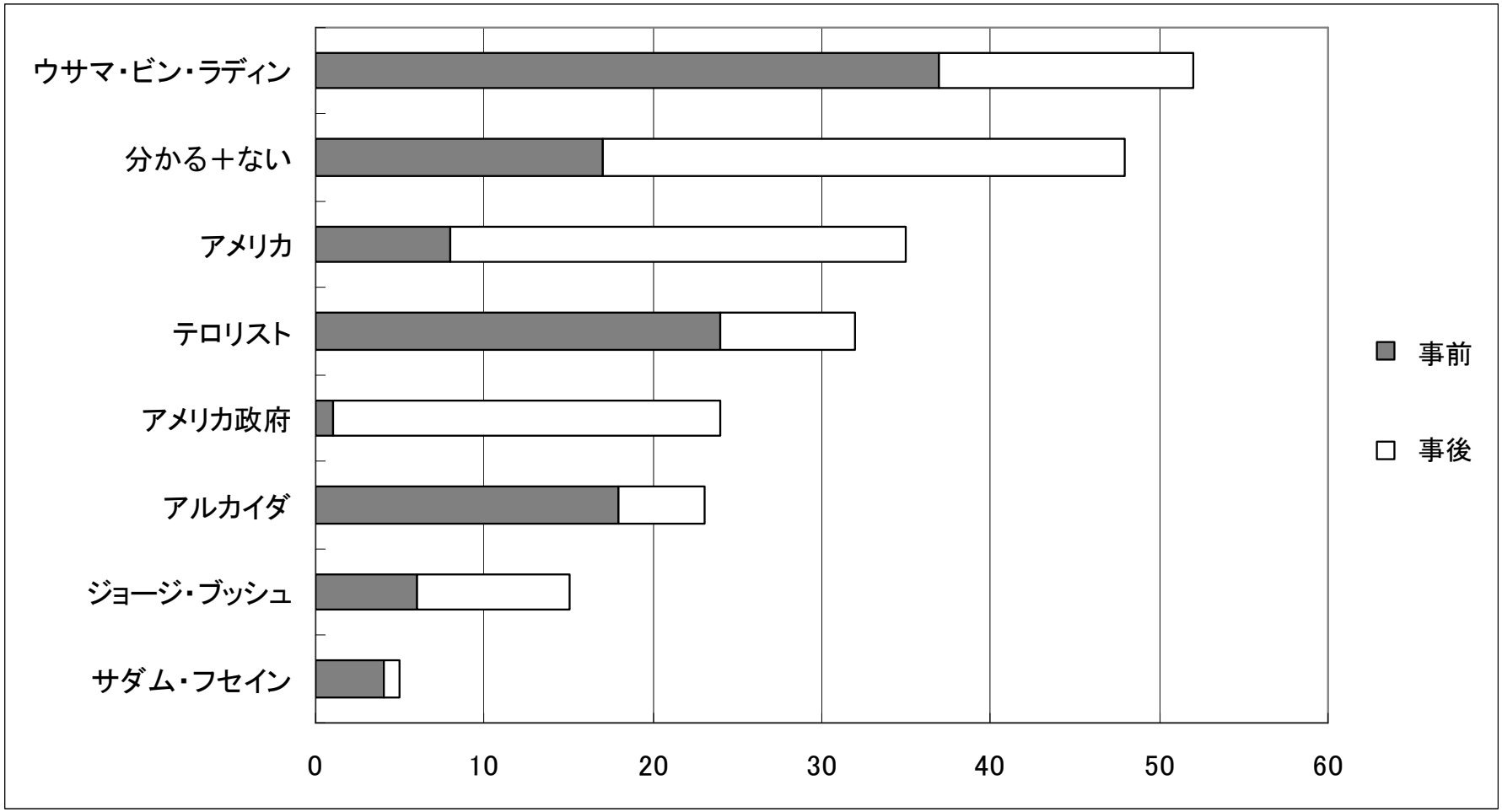


Fig.1　犯人は誰か？という問いに対する被験者の単語数の変化のグラフ

結果③　感想文の単語と3群の分析

- Fig. 2は、視聴後の問13(感想文)内における米政府見解(政府説)・中間・米政府関与説(関与説)の3群を対象として、単語との関係を図示した対応バブル分析である。
- 関与説の群は、真実、裏といった単語を多用し、また、関与説、中間説の郡共にアメリカ、本当といった単語を多用している。
- 政府説の群には、特に偏りのある使用単語は見られなかった。

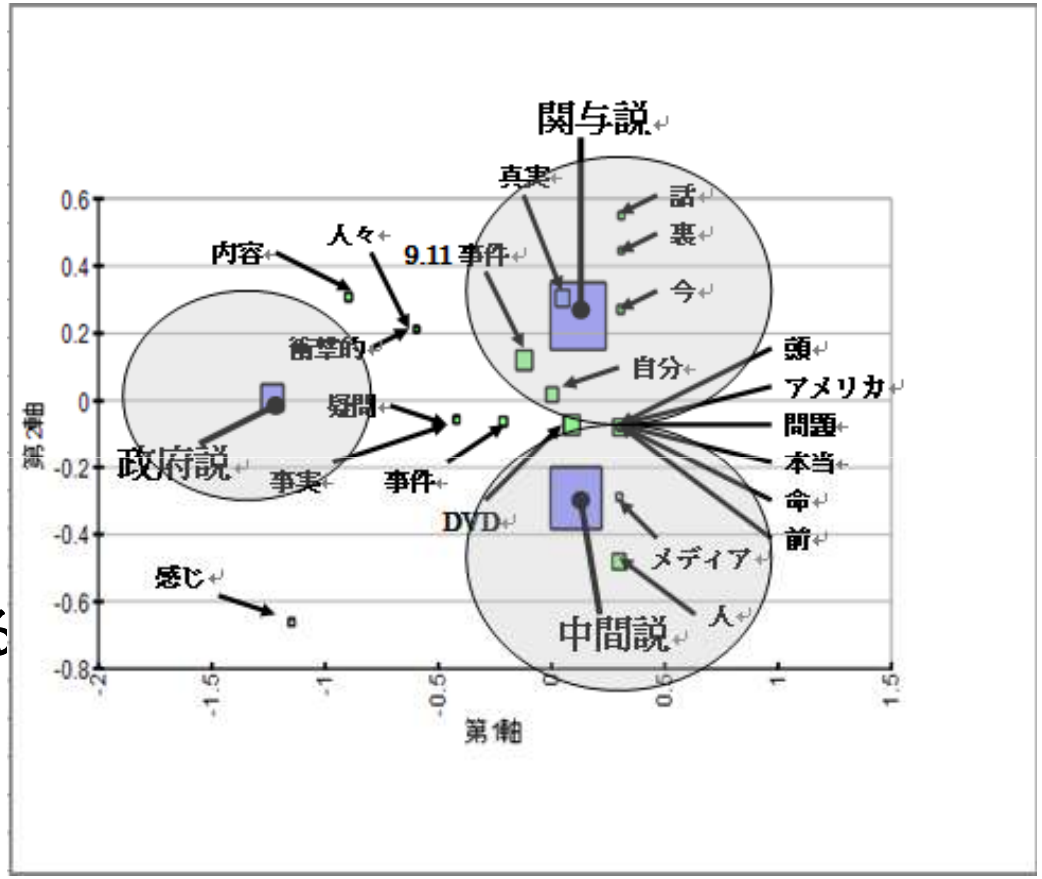


Fig. 2　問13(感想文)における単語と3群の対応バブル分析

結果④　連想されるキーワードの単語数の変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
テロ	77	36	-41	113
飛行機	44	33	-11	77
アメリカ	26	18	-8	44
ビル	19	9	-10	28
ウサマ・ビン・ラディン	14	12	-2	26
世界貿易センタービル	14	9	-5	23
爆発	6	15	+9	21
イラク	14	4	-10	18
爆弾	1	16	+15	17
9.11事件	13	4	-9	17
戦争	13	3	-10	16
グラウンド・ゼロ	12	4	-8	16
政府	0	13	+13	13
ハイジャック	11	2	-9	13
陰謀	0	12	+12	12
金	0	11	+11	11

Table.3，この事件について連想されるキーワードの単語数の変化

Table.3は、視聴前問7と視聴後問12(連想されるキーワード)の単語頻度を比較したものである。

視聴後(事後)ではテロ、ハイジャックといった政府説に関連した単語数が減少する一方で、

爆発、爆弾、陰謀という、作品内で扱われている関与説に関連した単語が多く現れている(Table.3，Fig. 3)

※青枠が視聴後に減少した単語、

赤枠が増加した単語

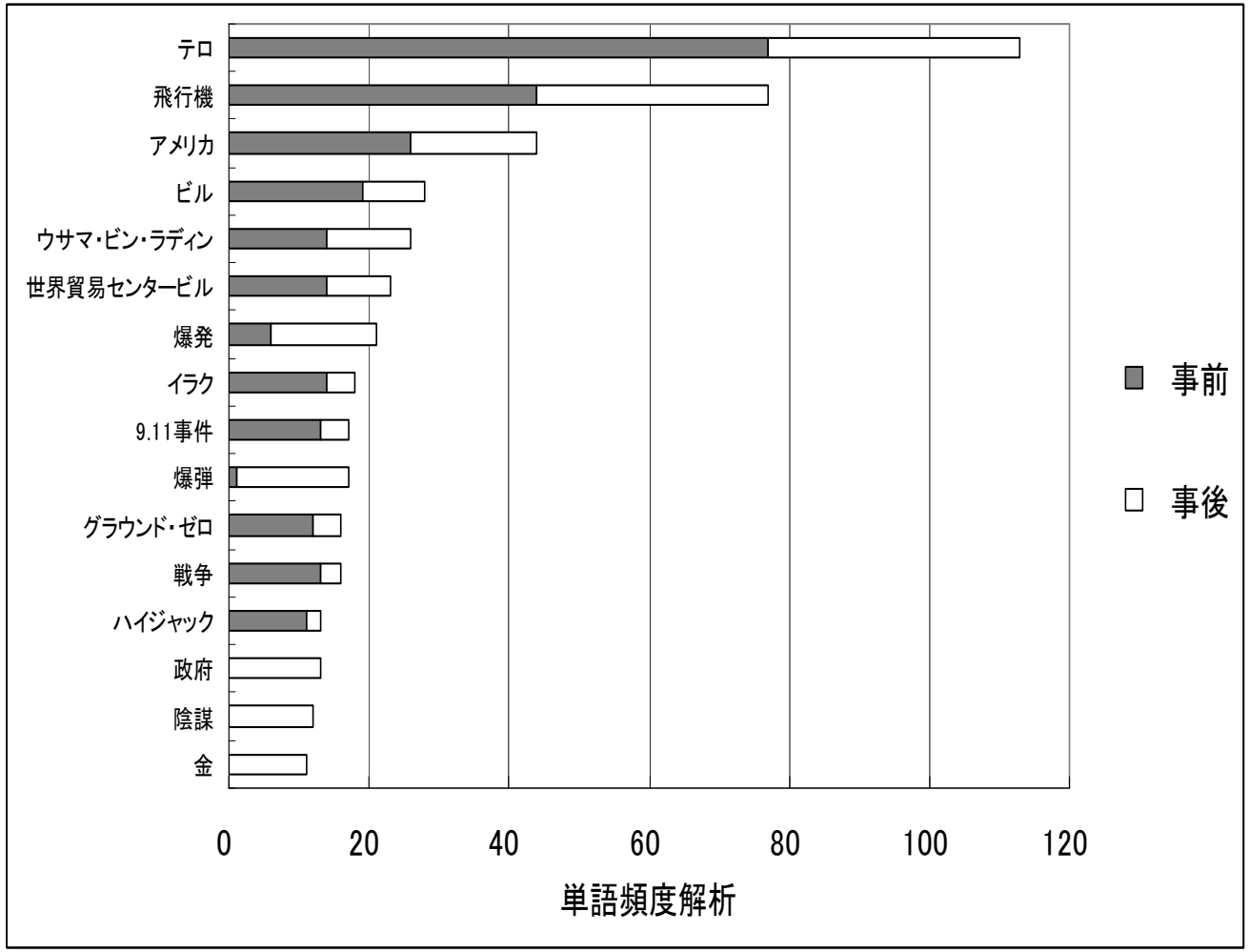


Fig.3 この事件について連想されるキーワードの単語数変化のグラフ

また、視聴後にのみ政府、陰謀、金 という単語が見られ、飛行機、ビル、9.11事件といった政府見解説、関与説共に関連の無い単語は減少した。

結果⑤　疑問点の単語と3群の対応バブル分析

- Fig.4は、視聴後の問8(疑問に思った点)における政府説・中間説・関与説の3群を対象として関係を図示した対応バブル分析である。
- 関与説の群は、なぜ、真実、犯人といった単語を多用し、中間説の群は、本当に、分かる＋ない、といった単語を多用している。

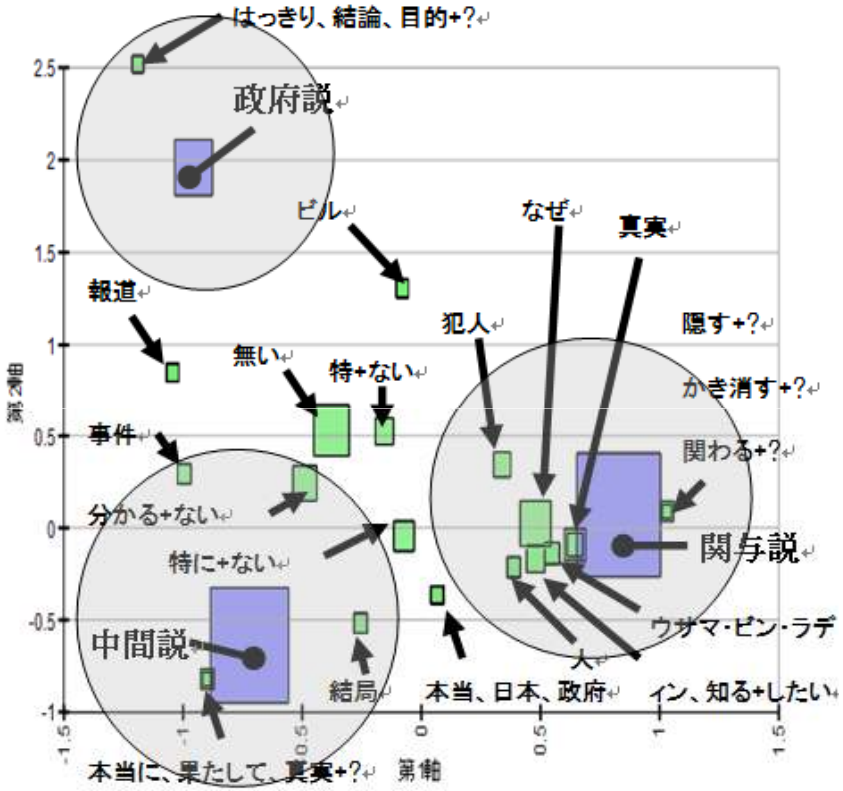


Fig.4　疑問に思った事の単語に対する3群の対応バブル分析

結果⑥ ビルの崩壊した数に対する事前事後の意見変化

- Table.4は視聴前と視聴後の問4(ビルの崩壊した数)の質問の答えを正答(3棟)、誤答(2棟)、誤答(4棟以上)、誤答(1棟以下)の4群に分けて比較を行ったものである。
- 事前に2棟と答えていた90名中17名(18.8%)が、視聴後は正答(3棟)に意見を変え、意見を変えなかったのは67名(74.4%)だった。
- 更に、正答(3棟)と誤答全体を符号検定を行ったところ、負の差6名、正の差21名、同順位120名で、$z = -2.694$, $p = .007$,$p < .005$となり、帰無仮説は棄却された。(Table.4)

	事後	正答(3棟)	誤答(2棟)	誤答(4棟以上)	誤答(1棟以下)	合計
事前	正答(3棟)	3	6	0	0	9
	誤答(2棟)	17	67	2	4	90
	誤答(4棟以上)	1	3	11	0	15
	誤答(1棟以下)	1	4	0	2	7
合計		22	80	13	6	121

Table.4, ビルの崩壊した数に対する意見の変化

結果⑦－1　犯人の目的における単語頻度の変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
アメリカ	43	22	−21	65
分かる+ない	15	26	11	41
戦争	11	17	6	28
お金	7	20	13	27
テロ	11	9	−2	20
宣戦布告	7	2	−5	9
破壊	5	2	−3	7
報復	5	2	−3	7
富	0	4	4	4
利益	0	4	4	4

Table.5,　犯人の目的の単語数の変化

※青枠が視聴後に減少した単語、

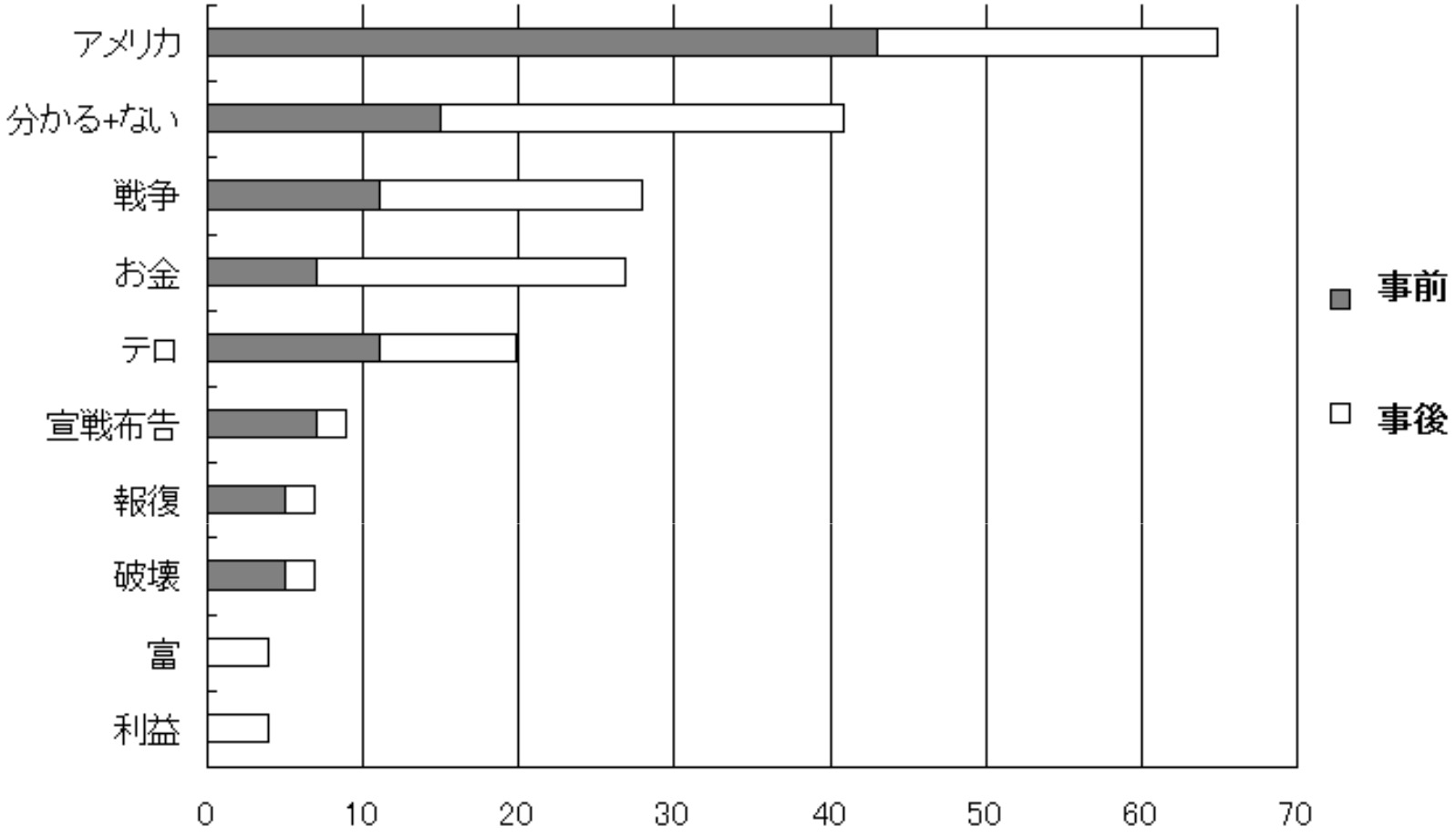
赤枠が増加した単語

Table.5は、視聴前と視聴後の質問3(犯人の目的)の単語頻度を比較したものである。

視聴後(事後)は、視聴前(事前)に比べアメリカ、宣戦布告、破壊といった単語が減少する一方、

お金、富、利益といった富に関する単語が増加している。

また、分かる＋ない(分からない)という単語も増加している。(Table.5,Fig5)



富、利益は視聴後(事後)のみに現れている。

Fig.5 犯人の目的における単語数変化のグラフ

結果⑦－2　犯人の目的における抽象化された13群の頻度の変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
富	8	36	28	44
戦争	21	20	−1	41
破壊	17	10	−7	27
報復	20	4	−16	24
侵略	9	14	5	23
テロ	11	5	−6	16
名声	13	3	−10	16
挑発	6	2	−4	8
意識の統制	1	6	5	7
政治	0	3	3	3
DK	17	29	12	46
NA	12	8	−4	20
他	12	7	−5	19
合計	147	147		294

Table.6,　抽象化された犯人の目的の頻度変化

※青枠が視聴後に大きく減少した単語、

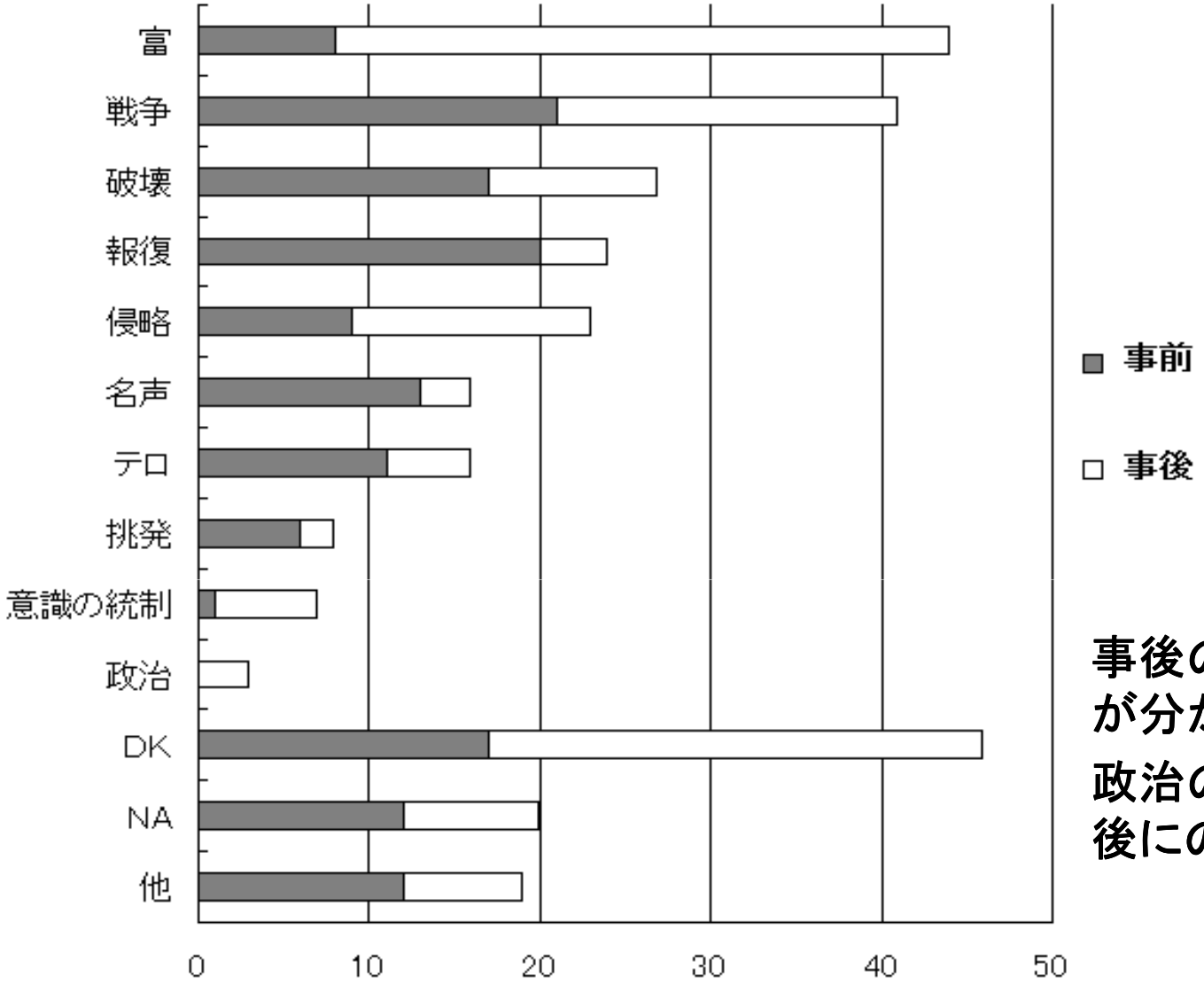
赤枠が増加した単語

Table.6は、視聴前と視聴後の質問3(犯人の目的)で挙げられた答えを1.戦争、2.富、3.侵略、4.名声、5.報復、6.破壊、7.挑発、8.政治、9.意識の統制、10.テロ、11.他、12.DK(分からない)、13.NA(無回答)の13群に分類し、各群の頻度を比較したものである。

視聴後(事後)は、視聴前(事前)に比べ破壊、報復、テロ、名声が大きく減少する一方、

富、侵略、意識の統制、政治が増加している。

また、NAが減少し、DKが増加している。(Table.6,Fig.6)



事後の富の増加が著しいことが分かる。

政治の群にあたる回答は、事後にのみ現れている。

Fig.6　抽象化された犯人の目的における頻度変化のグラフ

結果⑦ー3　視聴前の抽象化された13群と3群との対応バブル分析

Fig.7は、視聴前の質問3(犯人の目的)で挙げられた答えを13群に分類し、更に政府説、中間説、関与説の3群を対象として関係を図示した対応バブル分析である。

視聴前に関与説を支持していた回答は少なかったが、意識の統制という目的があると考えていることが分かる。

また、視聴前は政府説の支持者が多かったが、その回答の多くが犯人の目的が名声や、侵略、報復だと考えていることが分かる。(Fig.7)

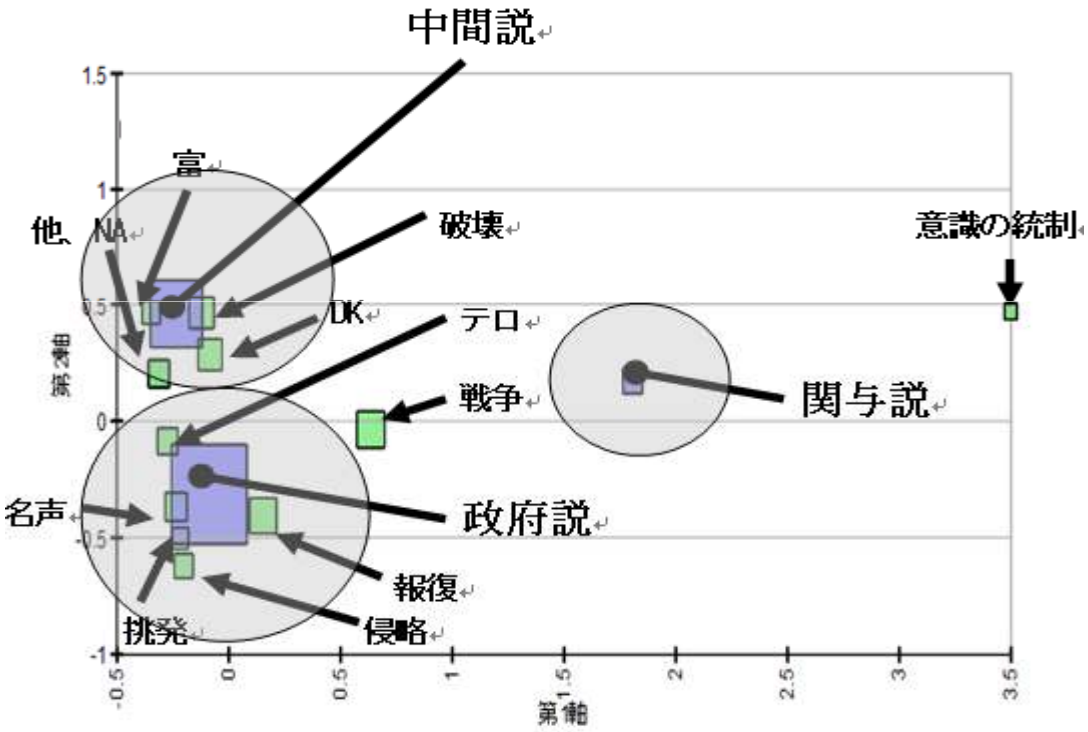


Fig.7　視聴前の抽象化された犯人の目的に対する3群の対応バブル分析

結果⑦－4　視聴後の抽象化された13群と3群との対応バブル分析

Fig.8は、視聴後の質問3(犯人の目的)で挙げられた答えを13群に分類し、更に政府説、中間説、関与説の3群を対象として関係を図示した対応バブル分析である。

視聴後は関与説を支持する回答が増えている。意識の統制に加え、侵略、富、政治という目的があると考えられている。

また、政府説の支持者が減少したが、その少ない回答にはテロ、挑発が目的だと考えていることが分かる。(Fig.8)

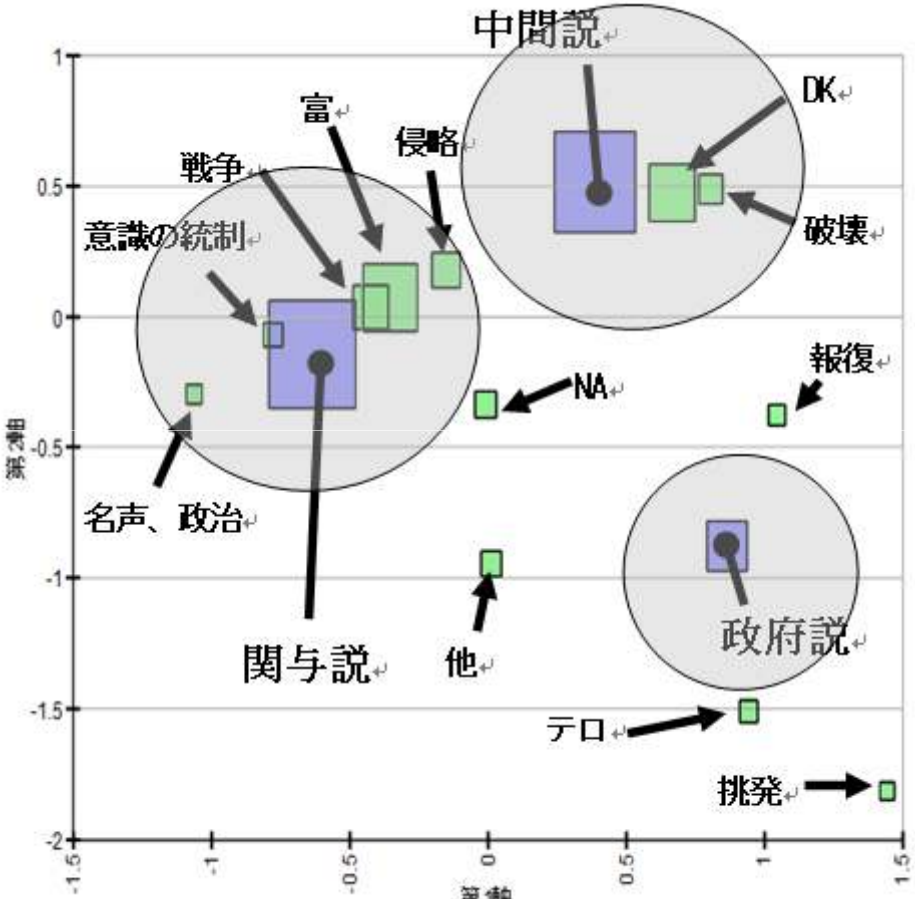


Fig.8　視聴後の抽象化された犯人の目的に対する3群の対応バブル分析

結果⑧ ビル崩壊の原因の単語頻度の変化

単語	視聴前(事前)	視聴後(事後)	増減	合計
飛行機	86	38	-48	124
突っ込む	46	7	-39	53
爆弾	1	52	51	53
爆発	10	28	18	38
ビル	13	9	-4	22
追突	13	7	-6	20
激突	11	4	-7	15
衝突	11	3	-8	14
爆破	1	8	7	9
分かる+ない	6	3	-3	9
崩壊	6	2	-4	8
仕掛ける	1	7	6	8

Table.7, ビル崩壊の原因の単語変化

※青枠が視聴後に減少した単語、

赤枠が増加した単語

Table.8は、視聴前と視聴後の質問8(ビル崩壊の原因)で挙げられた答えを比較したものである。

視聴後(事後)は、視聴前(事前)に比べ飛行機、突っ込むが大きく減少し、ビル、追突、激突、衝突も減少した。

その一方で、爆弾、爆発が多く増加し、爆破、仕掛けるも同時に増加している。(Table.8,Fig.9)

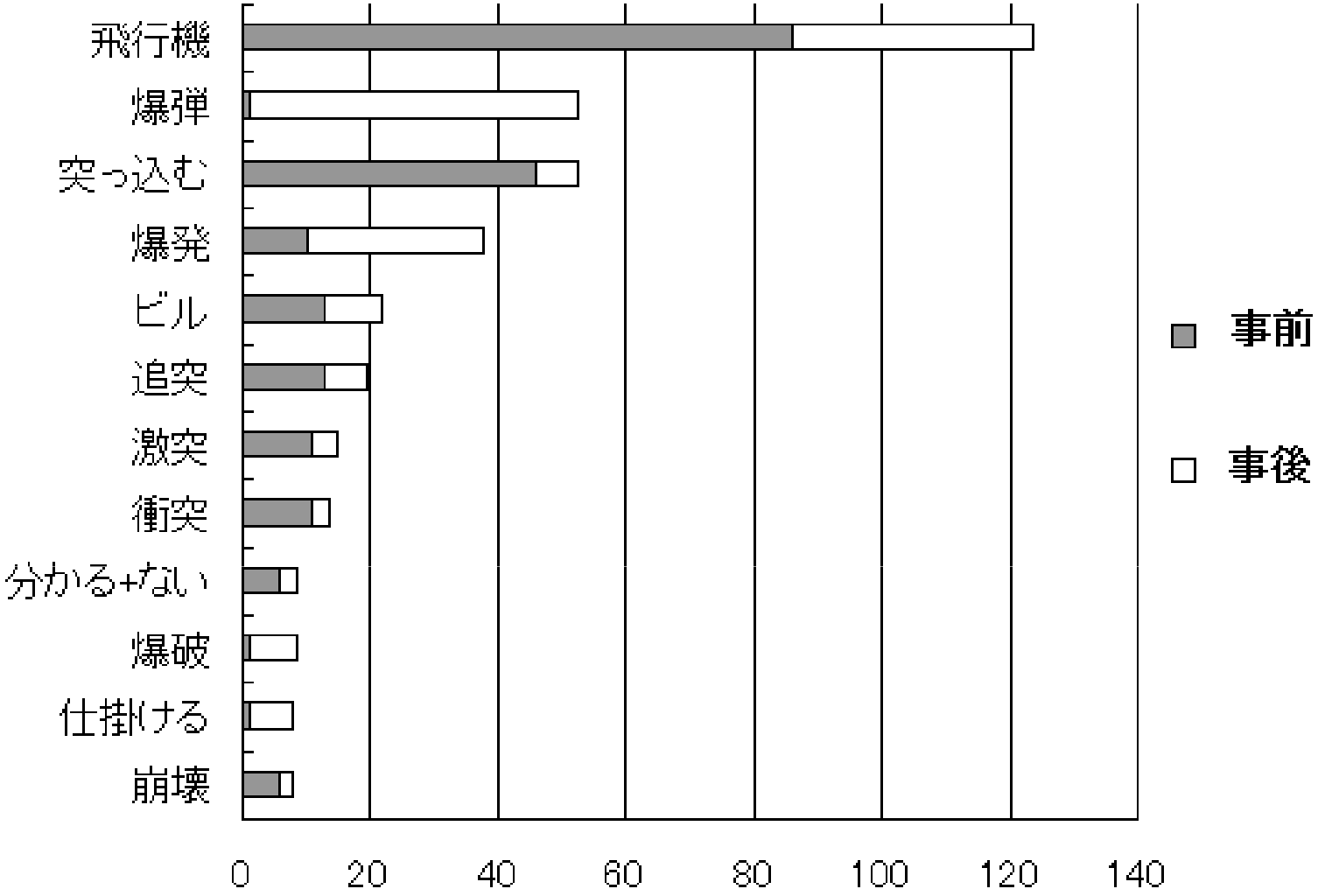


Fig.9 ビル崩壊の原因の単語変化のグラフ

事後の爆弾の増加が著しいことが分かる。

考察①　結果の総括（1）

- 結果①について、米国政府が関与するとする「米政府関与説」が増加したことは、ビデオの影響力が大きかったことを示しており、さらにいとう大高(2011)の【研究１】に比べ大きな正の差を得られた今回の研究で、『 Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』が非常に説得力のある作品だと考えられる。
- 結果②について、視聴後の犯人の単語頻度からビン・ラディンが減少し、アメリカが増加したのは、DVDの中で度々ビン・ラディンの映像の矛盾点をあげると同時に、アメリカへの不信感が募った結果であると考えられる。
- 結果④と結果⑧の視聴後の単語に爆弾や爆破が増加したことは、DVDの中でビルは爆弾が仕掛けられ、爆破されたという内容がでてきたことが要因だと考えられる。
- 結果⑥は一見効果はあまり見られなかった様だが、*z*値の値からは効果があったと考えられる。
- 結果⑦では、犯人の目的が視聴後では関与説群に富、戦争といった回答が多く見られ、戦争と答えた中にも、戦争は利益を生み出すといった、富の群に繋がる回答があった。DVDの中で移動された大金の映像が扱われたことが影響を与えていると考えられる。

考察②　結果の総括（2）

この他に、視聴後の問6で印象に残ったシーンを聞いており、問9の点数(平均67.56点)を高い評価、やや高い評価、やや低い評価、低い評価の4群分類し特徴語抽出を行ったところ、低い評価の群に、特になしの回答が3/3(Yates補正 カイ2乗=6.80,p<.05)で見られ、有意に多いことが分かった。しかし、その他に特に有意な結果が得られず、点数と印象に残ったシーンとの関係は無いことが考えられる。

考察③:暴力の記憶

- 結果③、結果⑤について、米国政府が関与しているとする関与説の群に真実、裏、なぜといった単語が多用されていることから、米国政府に対してはっきりした証拠があれば、解決するような問題に対して様々な言説があることが確認できた。
- 本研究の結果から、暴力の記憶は大きく変容し、影響を受けやすいことが明らかになった。暴力の記憶は脆弱性を持つ。この例をはじめとして、様々な情報を取り込むことで記憶の変化が生まれるのならば、誤った情報は人々を誤った運命に導く。虚偽の暴力の記憶を共有するという危険性をテキストマイニングによる分析を通して本研究で明らかにできた。
- したがって、暴力の記憶が安易に構成される今のマスコミの現状を批判的に見つめる視点が必要であること強調したい。

考察④:ゲシュタルト転換

- 結果から『 Loose change 2nd ed. 911の嘘をくずせ』が非常に説得力のある作品ということは示された、説得力のある作品は被験者により影響与えやすく、よってゲシュタルト転換が引き起こりやすくなることが考えられる。
- 私たちはメディアから与えられる情報によって、いとも容易くゲシュタルト転換が引き起こされ、記憶が変化していくことが分かった。これは私たちの記憶に対するあいまいさや、確信・自信の無さに対する警告を本研究は発信している。たとえ説得力のあるメディアでも、自分の元々の考えを別の観点と比較していくことで、全てを取り入れる、あるいは全く否定するのではなく、必要な部分だけを取り入れていく様な、懸命な情報選択能力が必要なのではないだろうか。

考察⑤　本研究の限界と今後の発展

- 本研究の限界として考えられるのは、第1に、被験者の平均年齢19.0歳と若く、9.11事件の時には9歳前後の年齢であることから、児童期の暴力の記憶とゲシュタルト転換に限られる。
- 第2に、実験計画上のフォローアップをしていないので直後の効果は分かっても、長期的な結果は分からない。
- 本研究では、『Loose change 2nd ed. ９１１の嘘をくずせ』を視聴する前と、視聴した後の変化をみている。その変化により、暴力の記憶の変容（益崎卒論）とゲシュタルト転換（中川卒論）が実際に生じるか、またその要因（原因）は何なのかを今後も明らかにしていく。
- 具体的には、目的の対応バブル分析を視聴前と視聴後で比較、視聴後問11のメディアについての意見の単語頻度分析、視聴後問7のイメージの分析等を進めたい。
- 質問紙の構成に関して、回答の確信の度合いを測定すれば良かったかもしれない。
- また、この調査はいとう大高(2011)の研究を引き継いでいるので、今後もそれらの先行研究と比較して考察したいと思う。

参考文献

- 近江玲　田島祥　坂元章　(2004)　教育番組の特徴抽出ー番組に対するイメージの分析ー　日本心理学会第68回大会
- いとうたけひこ　(2010)　DVD『９１１ボーイングを捜せ』と『9/11：真実への青写真』の視聴後の米国公式見解への支持の減少、平和教育研究会　第41回例会
- いとうたけひこ・大高庸平(2011)　『９１１ボーイングを捜せ』と『9/11：真実への青写真』の視聴が大学生に米国政府公式見解への支持減少を引き起こす効果、心理科学、第32巻1号（印刷中）
- いとうたけひこ　(2010)　メディアに構成され人々に共有された物語の記憶とその変容　DVD『９１１ボーイングを捜せ』と『9/11：真実への青写真』の視聴後の米国公式見解への支持の減少現象を手がかりに　日本応用心理学会第77回大会
- いとうたけひこ、大高庸平(2011)『９１１ボーイングを捜せ』と『9/11：真実への青写真』の視聴前から視聴後への米国政府公式見解への支持の減少はなぜおこったか？：テキストマイニングを活用したメディア・リテラシーの検討　心理科学，第31巻2号（印刷中）
- 大石裕　(2005)　世論調査と市民意識ーイラク戦争と自衛隊派遣（2003～2004年）を一事例としてー　メディア・コミュニケーション（55），49-62
- 烏谷昌幸　(2005)　新聞の中の「イラク戦争と憲法9条」ー朝日・毎日・読売の比較分析を中心にー　メディア・コミュニケーション（55），63-77

- グローバルピースキャンペーン　制作：ハーモニクスプロダクション　(2006) ルース・チェンジ セカンド・エディション 日本語版　LOOSE CHANGE 2ND EDITION　911の嘘をくずせ　（DVD）
- グローバルピースキャンペーン　制作：ハーモニクスプロダクション　(2009)911ボーイングを捜せ（DVD）
- グローバルピースキャンペーン　制作：ハーモニクスプロダクション　(2009)9/11：真実への青写真　建築の専門家による「崩壊」の徹底検証（DVD）
- ケーラー（著），宮　孝一（翻訳）(1962)　類人猿の知恵試験
- 小城英子・萩原滋・村山陽・大坪寛子・渋谷明子・志岐裕子　(2010)　集合的記憶とテレビ―ウェブ・モニター調査（2009年2月）の報告（2）―　メディア・コミュニケーション（60），29-47
- 小平朋江　伊藤武彦　松上伸丈　佐々木彩　(2007)テキストマイニングによるビデオ教材の分析　精神障害者への偏見低減教育のアカウンタビリティ向上をめざして　マクロ・カウンセリング研究，6，16-31
- 小平朋江　伊藤武彦　(2009)　ナラティブ教材としての闘病記：多様なメディアにおける精神障害者の語りの教育的活用　マクロ・カウンセリング研究，8，50-67
- 中村ユキ　(2008)　我が家の母はビョーキです　サンマーク出版
- 西牟田祐二　(2010)　９１１事件に関する「応用心理学的」考察―応用心理学会に向けての問題提起―　日本応用心理学会第77回大会
- 和田正人　(2009)　暴力的ビデオゲームのメディア・リテラシー批判分析　日本教育メディア学会研究会論集No.27：5-12
- W・リップマン著　掛川トミ子訳　(1987)　世論（上下）岩波文庫
- Wikipedia http://ja.wikipedia.org/ ゲシュタルト心理学の項　最終更新 2010年11月1日 (月) 16:02